

# 今日の黙想のてびき

週日聖書日課 ヨハネの黙示録 4：1～11  
2024年4月24日(水)

## ◆文脈と言葉

- 7つの教会への手紙のあとに、第4章～第18章までの大きな部分が置かれています。まず、創造主であり贖い主である神の栄光を表す導入の幻があり、それに続いて、一連の終末的な災いが描かれています。この災は終末における神の勝利による王国の確立の前触れです。それらは、7つの封印、7つのラッパ、7つの鉢、「バビロン」の滅亡です。
- けれども、災いのすべてが終わるのを待つのではなく、その要所要所に勝利はすでに得られたという励ましや、来たるべき勝利の予告を差し込んでいます。なぜなら教会は、キリストは歴史の終わりにのみ来られるのではなく、すでに来られたのであり、救いは終末的な災いを経てのみ成し遂げられるのではなく、歴史上の災いと苦闘との中においてすでに成されているという信仰を持っているからです。
- ここまでの7つの教会への批判とは対照的に、ここからは信仰者と教会は主の忠実な僕、礼拝者、救われるべき者として描かれています。

## ◆黙想のすじみち

### (1) あらすじと説き明かし

- ここで視点が転換されます。ヨハネは天の玉座を見ます。玉座に座っておられる方すなわち神の描写はエゼキエル書1:4～14を継承しています。様々な表現は旧約とつながっています。宝石は神の栄光、稲妻は神の顕現、海は混沌と破壊、そして神の支配を意味します。
- ここではこの玉座に座っておられる方への長老たちの礼拝が描かれます。黙示録は読者を礼拝へと招いています。地上では皇帝が自分への礼拝を強いる中、神への礼拝をささげることが、教会にとって、厳しいことであり、しかし大きな慰めであったはずで
- この礼拝は、「必ず起こること」(1節)です。迫害下で礼拝をすることができない教会もあったかもしれません。けれども、神への礼拝は必ず行われます。
- 長老とその他の礼拝者は「聖なるかな、聖なるかな」と賛美します。主なる神こそが、世々限りなく生きておられる方、栄光とほまれと力を受けるにふさわしい方、万物の創造主です。

(2) 内容・意味：この箇所では語られていることの意味は何だと思えますか。神(父・子・聖霊)は何をなさり、何を語られているのでしょうか。

(3) 語られる恵み。この箇所から自分に語られた恵みは何だと思えますか